

隣接市との連携をしっかりと

今後も必要に応じて連携を図っていく

松本 あきひろ (たちかわ自民党・安進会)



問 市境となつて... 隣接市との連携... 課題の改善... 今後の対応... 協力を図っていく

滝ノ上会館、トイレ改修などは先行実施を

利用者の安全・安心の観点で検討する

松本 まき (市民フォーラム)



問 公共施設保全計画の保留... 滝ノ上会館の改修... 今後の対応... 安全・安心の観点から

今任期の議会の歩み

(任期 平成26年7月14日～平成30年7月13日)

立川市議会基本条例(平成26年4月1日施行)の前文でうたっているように、二元代表制のもと、多様な市民の意見を集約して市政の課題に取り組み、市民への説明責任を果たすことなどに努めてきました。

Infographic showing achievements: 1. Easier access to council meetings (internet, video). 2. Diverse citizen opinions reflected (exchange meetings). 3. Smoother council operations (tablets, training). 4. Thorough review (environment committee). 5. Other (logo design, disaster relief, compensation).

請願・陳情が市政で実現

Timeline of petitions: 1. Dec 19, 2016: Multi-cultural city declaration. 2. April 1, 2018: Inclusive living ordinance. 3. April 1, 2018: Ordinance on management of specific empty homes.

用語解説 「財政調整基金」とは

年度間の財源の調整を図り、不測の収入の減少や支出の増加などに備えて積み立てている基金。



西国立駅付近の踏切

基金についての見解は

持続可能な財政運営に必要

佐藤 寿宏 (たちかわ自民党・安進会)



問 市税などの歳入の大幅な増収が難しい中、必要な基金の残高を確保することは、持続可能な安定した市民生活のためにも必要です。... 答 多様化する市民ニーズに対応するため、持続可能な財政運営が必要... 基金残高については、目標値を設定し、行財政改革に取り組み、職員定数の適正化などによる経常的な経費の圧縮に努め、平成29年度末の残高見込み額は、財政調整基金が81億3千万円、公共施設整備基金が109億6千万円となっています。

意見書

ヘルプマークのさらなる普及推進を求める意見書

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など外見からは容易に判断が難しいハンディのある方が、周囲に援助や配慮が必要であることを知らせるヘルプマークおよびそのマークを配したヘルプカードについては、平成24年に作成・配布を開始した東京都をはじめ、導入を検討・開始している自治体が増えている。特に昨年7月に、ヘルプマークが日本工業規格(JIS)として制定され、国としての統一規格となつてからは、その流れが全国へと広がっている。

このヘルプマークおよびヘルプカードについては、援助や配慮を必要とする方が所持・携帯していることはもちろんのこと、周囲でそのマークを見た人が理解していないと意味を持たないため、今後は、その意味を広く国民全体に周知し、思いやりのある行動をさらに進めていくことが重要となる。

しかし、国民全体における認知度はいまだ低い状況にある。また公共交通機関へのヘルプマークの導入など課題も浮き彫りになってきているところである。

よって政府においては、心のバリアフリーであるヘルプマーク及びヘルプカードのさらなる普及推進を図るため、下記の事項について取り組むことを強く求める。

記

- 1 「心のバリアフリー推進事業」など、自治体が行うヘルプマークおよびヘルプカードの普及や理解促進の取組みに対しての財政的な支援を今後も充実させること。
2 関係省庁のホームページや公共広告の活用など、国民へのさらなる情報提供や普及、理解促進を図ること。
3 鉄道事業者など自治体を越境している公共交通機関では、ヘルプマーク導入の連携が難しい状況にあるため、今後はスムーズな導入が図れるよう国としての指針を示すこと。

(提出先) 内閣総理大臣 国土交通大臣 厚生労働大臣